

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第10週（3月7日～3月13日）

## 今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

### 定点把握感染症

「小児科・眼科定点疾患の報告数 減少」

第10週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は590例であり、前週比7.7%減であった。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.38、0.18、0.11、0.11、0.08である。

感染性胃腸炎は前週比5%減の469例で、中河内3.25、三島3.13、大阪市北部3.07、南河内2.88、大阪市南部2.53であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は57%減の22例で、北河内0.23、三島0.19、泉州・中河内0.15である。

咽頭結膜熱は5%減の21例で、大阪市北部0.93、北河内0.15、中河内・大阪市西部0.10であった。

RSウイルス感染症は6%減の16例で、中河内0.30、大阪市西部0.20、大阪市北部・大阪市東部0.14である。

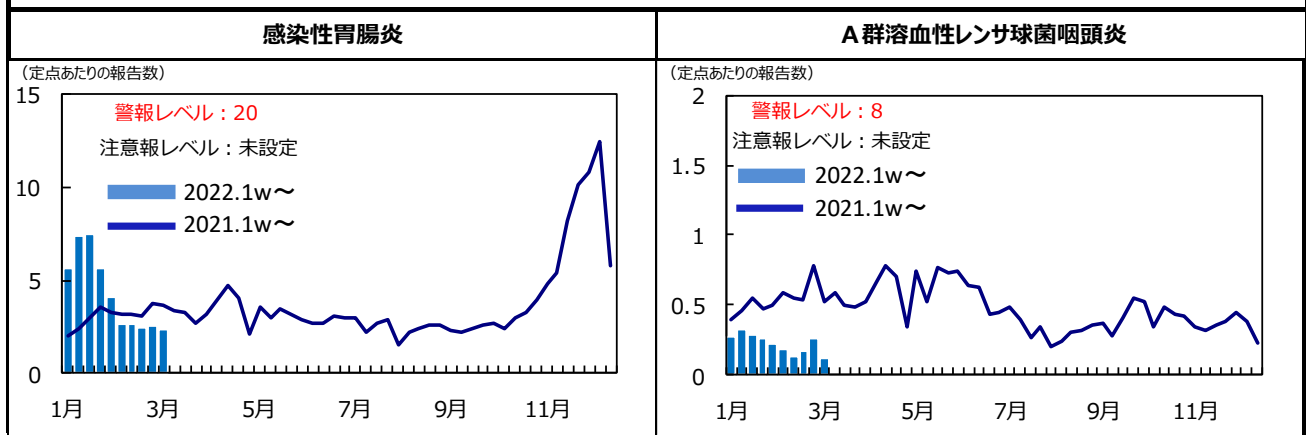


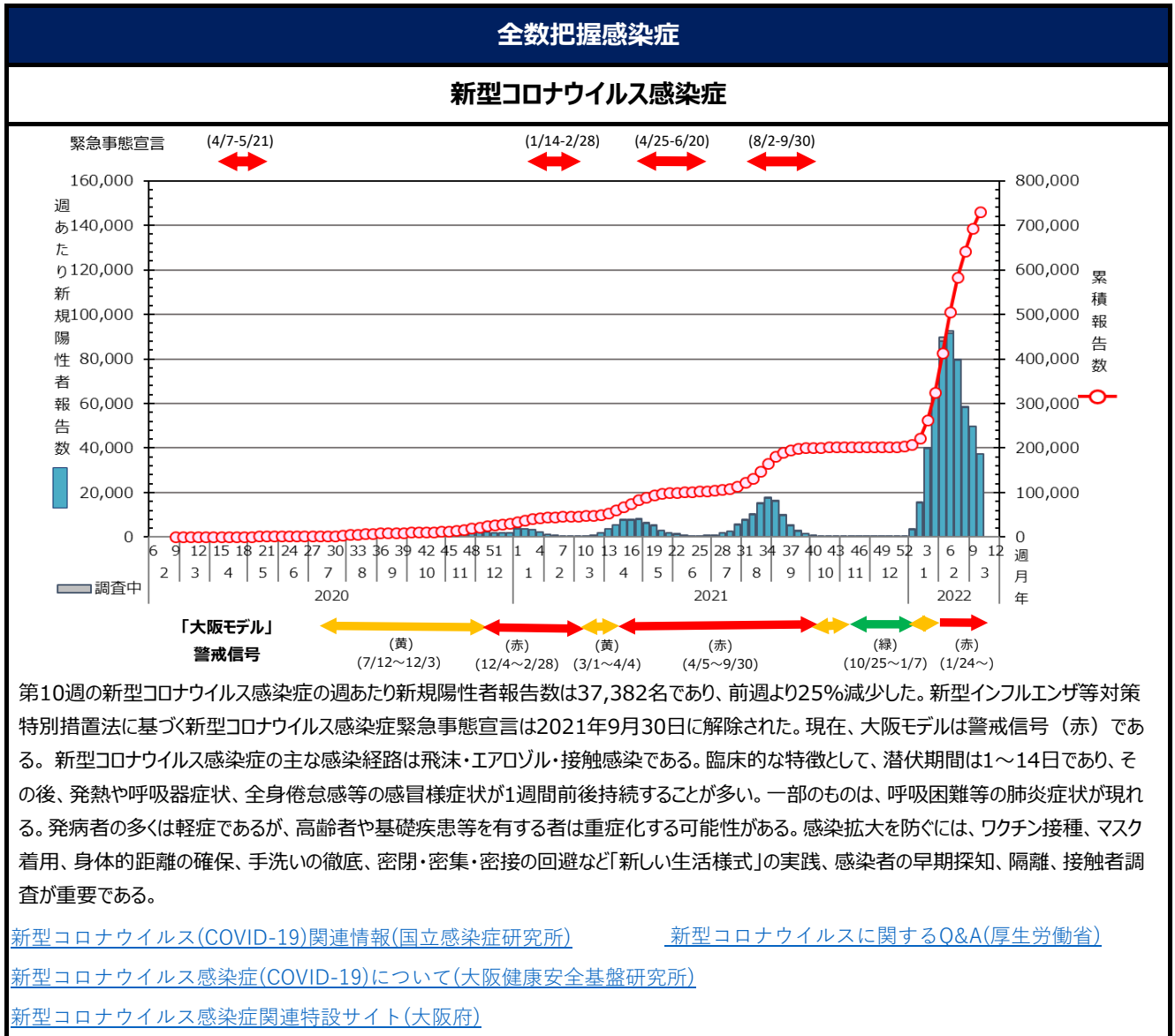
表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第10週3月7日～3月13日）

第10週の順位	第9週の順位	感染症	2022年 第10週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第10週の 定点あたり 報告数	2022年第10週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.38	5%減	3.68	2歳_15%
2	3	突発性発しん	0.18	44%増	0.37	1歳_53%
3	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.11	57%減	0.53	4歳,20歳以上, _18%
4	4	咽頭結膜熱	0.11	5%減	0.14	4歳_48%
5	5	RSウイルス感染症	0.08	6%減	1.21	1歳_44%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.00	100%減	0.01	

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

# 第10週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）



**表 2. 大阪府全数報告数（2022年 第10週3月7日～3月13日）**

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります  
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】> 全数把握疾患 をご覧ください。）

疾患名 ( )内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症 細菌性赤痢	1							1		4
4類感染症 レジオネラ症（肺炎型）	2			1					1	14
5類感染症	アメーバ赤痢	1							1	11
	後天性免疫不全症候群	1							1	12
	梅毒	7						1	6	174
	麻しん（臨床診断例）	1	1							1
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	37,382	2020年1月以降累計 729,702							
結核 (2022年1月分)	結核 新登録患者数：52名	(内 肺・喀痰塗抹陽性 23名) (府内累積報告数 52名、内 肺・喀痰塗抹陽性 23名)								

(2022年3月15日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。